



# 12月 生活目標



～ 場に応じた話し方をしよう。 礼儀正しくしよう。～  
使う言葉に気を付け、丁寧な気持ちをもって話そう。言葉・姿勢・目線を意識しよう

## 本校の特別支援教育の取組について

特別支援教育コーディネーター 柴田佳織・久米教介・佐藤真帆

本校では、毎月1回、校内支援委員会を開き、児童の様子を全体で共有するようにしています。また、本校には、苦手なことに取り組み、自分の力につなげたり、友達との関わり方を学んだりする、特別支援教室「サポートルーム」があり、学級だけでなく、特別支援教室との連携も図りながら、巡回指導員の先生方が指導に充たっております。

特別支援学級「5組」と、全校朝会や遠足、校外学習、運動会など、各行事ごとに、通常学級の友達と関わる活動を行っています。今年度から、縦割班活動もあり、異学年との交流の学びの場がより増えています。さらに、都立特別支援学校とも、副籍交流を行っています。

今後は、行事だけでなく、各教科での交流学习もできるよう、教員同士が連携を図り、児童同士の関わりがさらに深くなるよう、進めてまいります。

## 読書月間について

図書部 野中 美里

10月18日(火)から11月11日(金)までは読書月間でした。10月26日(水)に、読書月間集会を行いました。児童図書委員会では、みんながたくさんの本にふれあう企画を考えました。「読書月間のみ3冊まで本を借りることができる「出雲図書くじ」です。

読書月間が始まった頃、貸出冊数が増えず、児童図書委員から、「1人3冊までにすればよいのではないか」という案が出たことを生かし、読書月間の期間のみの取組を実施しました。「出雲図書くじ」は、図書室で本を3冊借りて読むか、図書室で借りた本を100ページ以上を読むと、1日1回ひくことができます。子どもたちはたくさん本を読みすすめ、「出雲図書くじ」の中身を楽しみにしながら活動に参加していました。その成果もあり、この読書月間期間中の貸出冊数は、昨年度より290冊増え、2,405冊でした。読書は読む力や豊かな心を育みます。今後も豊かな心と文章を読む力を育てていきます。

## 「縦割班」遠足について

特別活動主任 宮崎 有希

今年度から、きょうだい班活動ではなく、「縦割班」活動を実施しています。「縦割班」活動とは、1～6年生までが一つの班になり異学年交流をすることです。「縦割班」活動にすることで、6年生全員がリーダーになり、下級生のために主体的に活動を考えたり、班をまとめたりすることができるようになります。また、どの学年も様々な学年と関わることができるようになり、「どの学年もみんな友達」になっていきます。

10月24日(月)は「縦割班」遠足でした。普段の関わりだけではなく、遠足を通して、安全に多摩川土手まで行けるように低学年をリードしたり、着いた後、班ごとに楽しめる遊び・ルールを考えたりして、楽しむことができました。今後は、6年生から5年生へと、リーダーのバトンを渡していきます。



## ランランタイムについて

体育部 台座 洋亮

11月16日(水)から12月16日(金)までの間をマラソン月間として、5分間走を通して、健康・体力の向上を図りながら、高学年は12月17日(土)に行われる大田区小学生駅伝大会の練習を兼ねて、「ランランタイム」に取り組んでいます。感染症予防として、朝、中休み、昼休みに分けて2学年ずつ密を避けて活動を行っています。

無理せずゆっくり走る子、自分の力を伸ばそうと速いペースで走っている子、目標を立てて取り組んでいる子など一人一人自分のペースでとても意欲的に取り組んでいます。



## 【子どもの心サポート月間】

副校長 小林 正明

大田区教育委員会では毎年6・11月を【子どもの心サポート月間】(東京都教育委員会では、2月も含め、ふれあい月間を設定)とし、いじめ、自殺、暴力行為等の問題行動、不登校の早期発見・早期対応、未然防止等につながる取組の実施をしています。11月は子どもの心サポート月間でしたが、今年度の折り返しを過ぎた中で、子どもたちから友達との関係や学習のこと、家庭のことなど、様々な様子が顕著に現れてきます。また、トラブルや不登校等が多くなる時期でもあります。

本校でも全児童アンケートやいじめ防止に関する授業、3学年以上で実施した学級集団調査 WEBQU についての教員研修などを通し、全教職員による一人一人の児童の様子をより丁寧に見取る取組を進め、日々の指導に生かしていきます。

## 【親子でチャレンジ!五・七・五】冬休み編

今年度の冬休みにも、親子で俳句や川柳に取り組むことをお願いいたします。先日、3年1組が日本学校俳句研究会の小山 正見先生に俳句の御指導を受けました。その際に本校の親子俳句について紹介したところ、とても珍しい取組であると興味をもたれ、それぞれの作品を見入っていました。そして、よい取組だからと今後も続けることを御助言いただきました。ぜひ、今年度の冬も、親子で、「十七音」の世界を思い出にして残してほしいです。御理解と御協力をお願いいたします。